

## 普仙寺だより

<<

>>

第160号 平成20年10月



平成20年9月23日 秋の茶会にお手伝い頂いた方々  
後列 加藤瑞枝さん、杉浦幸子さん、福井史江さん  
前列 押田京子さん、岡田コトヨさん、田口さな代さん

## ほとけ

国語辞典で「ほとけ」を調べますと次のようにあります。

### 1. 仏教語

ア、釈迦如来。また、広く菩薩など。

イ、仏像。

ウ、仏式で弔った死者。

### 2. 仏性の人。善良な人。慈悲深い人。

本来は「悟りを開かれた方」をインド語で、「ブツダ」と言います。漢字翻訳されて「仏陀」と記され和訳訓読みの時に「ほとけ」と読まれました。

亡くなられた方を「ほとけさま」と呼ぶのは「仏様の所へ行かれる方」を略した呼び方です。

## 秋の茶会

9月23日、秋彼岸法要の日に檀信徒会館にて秋の茶会を開催しました。

華頂婦人会の役員の方が、お運び、お手前をしていただきました。ありがとうございました。



平成20年9月23日 秋の茶会で抹茶を飲まれている檀信徒の皆さん

## 詠唱全国大会

10月3日の知恩院吉水講全国大会に、普仙寺より黒柳花子さんが参加されました。  
住職加藤良光は、役員として10月4日・5日の2日間奉仕させて頂きました。  
寺庭婦人加藤桂子は、三河教区三鈺会の一員として詠唱奉納させていただきました。



平成20年10月5日 知恩院吉水講全国大会に参加しました

## 神山盛二さんの記事が『和順』に掲載

知恩院『和順』平成20年8月1日号に、当寺檀徒神山盛二さんの記事が掲載されました。

私もおてつき運動推進協議会の一員です 愛知県普仙寺 神山盛二～本部役員より一言～

先日の故中村康隆門主様の総本山知恩院での葬儀が盛大に行われ、大勢の人でお参りをしていただいたと知らされました。私もお参りすると、菩提寺の御住職と参拝する約束をしていましたが、丁度当日会社の来客があり、総本山の葬儀に行けなくなり、申し訳なく思った次第です。菩提寺の御住職と役員との2、3名で出席し、御参り致した次第です。帰宅された後葬儀の様子を知らされ手を合わせ、お寺の本尊様に手を合わせ代拝させていただきました。

私が総本山の奉仕をさせていただく様になりましたのは菩提寺の先代、今は亡きお尚様の時代からでした。当時先代は総本山の三門の修理部長で一生を終えられ、落慶式の当日は総本山の位牌堂の一室で眠っておられる状態でした。私共一同バス2

台で担当の皆と三門の修理のできあがりを見せて拝ませてもらいました。

当時は、今のおてつき推進協議会の前身で「伝道隊」と言い、その時から役をいただき、現在まで続いております。当時の役員は30名位でしたが現在は役員数は8名です。本部の方々との協議し、指導をいただき奉仕するのが現役員のスタイルです。他の会員の方々と共に奉仕します。今までの何年か(15年間位)の長い時間でした。当時のお尚様も何人かが本山での各職場で活躍なさって居る姿にたびたび御会いします。

私共2ヶ月に一度位の会合で総本山に登嶺します。会員の皆様もそれぞれ職を持ちながら総本山に登嶺して奉仕をして居ります。すばらしき部長課長さんの懸命な指導者の元で奉仕できるのは私共たのしく思っています。

特に中央研修会の時、大勢の会員の皆様には時間を惜しむことなく出席される姿は敬服致す次第です。此の研修会が出来て最初から全部出席をさせていただき法然上人のこと、そして日常の生活まで教えて下さる会は外には無いと思います。私たち役員には必ず出席をお願いされますが、非常に結構な行事と想い毎回出席して居ります。

1年に1度、7月22日～7月24日まで当地の佛教会の主催で暁天講座と銘打って大谷派の先生が話をしてくれます。朝6時～7時まで500名位の各派の善男善女が集まります。私は終わりますと会社へ直行したり、出席した皆様に配られた牛乳とパンを頂戴して今日聞いた話をまとめながら、帰路に着きます。私は知恩院で経験致しておりますので、何ら障害はありません。多くの宗派を見ておりますが私は浄土宗が一番優れた宗派と思います。いつもいつも御世話様になり指導して頂いておりますが、我々おてつき運動の皆々様は十分な理解を以てつとめます故、今後共々御指導の程御願申し上げます。

合掌

## 800年前の法然上人

今から800年前、建永2年(西暦1207年)の9月、法然上人にはどのようなことがあったのでしょうか。

法然上人は、後鳥羽上皇の命によって四国流罪となり、前年の3月16日京都を出発して讃岐生福寺に留まられていました。同年12月8日、流罪を許す命が下りました。しかしながら、京都に戻ることは許可されず、摂津の国勝尾寺に行くこととなりました。

800年前の今月、おそらく法然上人は、勝尾寺に居られたと思われます。

この年法然上人は、かぞえ76歳でした。

年月が不明ですが、法然上人が勝尾寺に滞在為されていた時に、勝尾寺の僧衆に袈裟や衣をご寄付なされました。寺の僧はこれを喜び、7日間の念仏勤行をされたそうです。

また、勝尾寺に一切経が無いことをお聞きになり、法然上人のお持ちの一切経をご寄付なされました。

このご寄付の供養法要には、法然上人とご縁のある聖覚法印を勝尾寺にお招きしました。

聖覚法印は法要の中で、法然上人のお念仏の教えを讃え、私たちが極楽浄土を願い、南無阿弥陀仏をお唱えするのは、法然上人のお導きのおかげですと、発言されました。

## 寺行事案内

土曜礼拝 (どようらいはい)

毎週土曜日 午前8時30分～9時

礼拝を含むお勤めです。本家、新家の別なく、どなたでもお参り下さい。

◇内容

1. 浄土日常勤行式
2. 法然上人御法語拝読
3. 住職の法話

◇法然上人御法語の予定

10月13日

- 後編第5章 無上功德
- 後編第6章 念佛付属
- 後編第7章 助正分別

- 後編第8章 安心起行

## 月並法要（つきなみほうよう）

平成20年11月8日（日） 午後7時より

月に一度、檀信徒の皆様でお参りする法要です。どなたでもお参り下さい。

法要中、年回忌の祥月にあたる方のご回向もいたします。

### ◇内容

1. 浄土日常勤行式
2. 一枚起請文拝読
3. 詠唱奉納
4. 住職の法話